

## 仙人通信 193 不老山(928m)

不老山(ふろうざん)は、JR 御殿場線の駿河小山駅と丹沢湖の世附川の間で、三国山から連なる尾根の東側的一座で、この時期サンショウバラの咲く事で、有名な山である。

今回は、国道 246 号に近いサンショウバラの咲く金時公園の駐車場に車を置き、尾根伝いに山頂を目指し、世附峠→不老の滝→山口橋から民家の間を通り駐車場へ戻るコースとした。駐車場の南側の檜林の尾根に、コンクリートの丸太で造られた階段がスタート点だ。15 分程登るとベンチが置かれた城山峠である。じょうざん峠と読むそうで百人一首の第 14 巻の 5399 番に出てくる？とある。ここからは高压線等の管理用に整備された林道を進む。10 分も進んだ時点で、眼下に第二東名の工事現場が望め、更に 5 分程で、柳島からの林道と合流だ。日の当たる斜面には、ニガナ・ジシバリやウツギ・ヤマコデマリが目立つ。30 分程進むと尾根に向かい「不老山 3.4Km」の登山道の標識である。

しかし、眼下には先程の林道が併進している。更に 10 分程で、3 本目の高压線の鉄塔だ。西側が開けて富士山も望める。林道の先には、箱根の山脈そして噴煙を上げる大涌谷だ。更に 20 分程進むと檜林からブナの林になるも、直ぐに檜や杉林である。足元では白いフタリシズカや赤いヤマツツジも散見される。尾根筋を進むとサンショウバラの木も見えるも、花の気配がない。更に 30 分程で、世附峠の分岐を過ぎ 10 分程で山頂(スタートから 2 時間 10 分)だ。檜林に囲まれた狭い山頂には、サンショウバラが 2 本あるも蕾の状態である残念！。休憩後 200m 程先程の分岐まで戻ると、木々で額縁状になった空間に富士山が見事であった。かなり急勾配の檜林の尾根筋を世附峠に向かい進むと、右手に丹沢湖の先にある権現山や檜洞丸・蛭ヶ岳が梢越しに望めた。30 分程で林道がクロスする世不峠に到着である。周囲にはサンショウバラの木があるも花は皆無だ。サンショウバラの丘のある悪沢峠方面からこられたご夫婦に開花状況を尋ねると 1 輪も咲いて居ない由、コースを峯坂沢と併進する林道を下る事にした。日のよく当たる沢筋では赤や白のウツギ・白いヤマコデマリ・ウノハナ・ザリコミ・フタリシズカが、又黄色いニガナやジシバリが崖を埋め尽くしている。キイチゴも熟れて食べごろである。瀬音や小鳥の声を聴きながらのんびりと 1 時間程で、落差が 30m 程の不老の滝だ。ご存じの様に東名高速と並行に神縄断層が走っており生土山に至る沢筋には、その痕跡が確認されている事が知られている。この林道沿いの崖にもと・思い探しながら山口橋まで辿ってみたが、発見できなかった残念だ。第二東名は、現在正にこの断層の上に作られている感じだ。工事中の現場を眺めながら、林道や市民の生活道主体の 5 時間弱(25000 歩)の山旅と成りました。(R1.5. 24)

山頂

富士山

不老の滝

サンショウバラ

